

扶桑畫人傳 卷之一

子 4
4673
1



門子
號4673
卷1

古筆了仲編輯

扶桑畫人傳

全五冊

早稲田大学図書館
昭36.5.16
藏書

阪昌員藏版

扶桑畫人傳序



本朝の畫源神代始りといふも後世といふも
此金園ありて漸く畫體倣る支なり
連綿として畫工逸人世に盡んといふも
と今あるを存すより家々書畫を濫し其真
質を審定する業ある日こあるは珍
を展するものと其妙技を感賞せらるる
あしこし人々の勸めやせし上天子より
下庶人といふるまで我朝の畫をかくして
其畫の今此世に残る人々此畫傳を綴る

集めて五巻と成 扶桑畫人傳と名づく
しつらといふと遠漏ふよりのあはす
因く識者此補闕ありんことをさふらん

明治十六年八月

古筆了伴



本願の畫家軒か... 扶桑畫人傳

小引

移南山蘭栽於北丘千里異處其香莫
不同者也余於古筆了伴子交游四十
年其情猶一遐邇離合或在異地思繹
無纖介信慕如比隣如今共在輦下于
月于花交情愈密可謂同心之結果耳
子家世鑒古人之筆蹟這回編輯古今
之畫傳踰扶桑畫人傳稿成一日袖之
請余小引余閱之而其驚精覈沈暗豁
開非子之力而復誰能之謂古筆了伴

子知余愚而不絶交断金之情及于茲
故忘慙愧以書此語世之讀此編者宜
知好交之交如斯於余亦為此書霑芳
蘭之餘馥可勝喜哉

明治壬午天中節

豫堂竹腰源正美識



中島梅仙書



技楽畫人傳序

右筆了仲ゆゑおのゝ家おのゝ家とてわらま
よるしよのよしよとてふらまの筆れ臨
をかんしよのよしよとてふらまの筆れ臨
けの我ら画はしよとてふらまの筆れ臨
せよからとおほのの物とてふらまの筆れ臨
弦詞とてふらまの筆れ臨
まゝいゝとてふらまの筆れ臨
けとてふらまの筆れ臨
とてふらまの筆れ臨

光文	光貞	光孚	光清	○	行長	相保	隆盛	永春	寂濟	光國	正甫
三十四	三十五	三十六	三十七		三十八	三十九	四十	四十一	四十二	四十三	四十四
○	金岡	相見	公忠	公望	和髙	是重	信茂	宗義	益宗	有宗	宗久
	四十五	四十六	四十七	四十八	四十九	五十	五十一	五十二	五十三	五十四	五十五
永有	光康	有家	有康	○	金若	金髙	金持	宗深	源慶	尊知	源尊
五十六	五十七	五十八	五十九		六十	六十一	六十二	六十三	六十四	六十五	六十六

有行	有忠	有重	有久	行忠	惟久	俊久	覺玄	豐後法橋	筑後法印	越後法眼
六十七	六十八	六十九	七十	七十一	七十二	七十三	七十四	七十五	七十六	七十七
○	為氏	為成	為遠	為久	為行	澄賀	勝賀	良賀	榮賀	○
	七十八	七十九	八十	八十一	八十二	八十三	八十四	八十五	八十六	八十七
淨賀	了尊	淨宏	松谿	信春	○	觀深	尊海	慶舜	琳賢	琳玄
八十八	八十九	九十	九十一	九十二		九十三	九十四	九十五	九十六	九十七
侍從										
九十八										

扶桑書人傳 卷之一

○	隆光	九十九	○	廣夏	百九
○	經光	百	○	廣當	百十
○	慶恩	百一	○	廣長	百十一
○	廣通	百二			
○	廣澄	百三			
○	廣保	百四			
○	廣守	百五			
○	廣行	百六			
○	廣尚	百七			
○	和貫	百八			

一此技桑畫人傳ハ予カ家ニテ名譽ノ画ヲ見タル毎ニ其画傳其画風ヲ記シ置タル俛ヲ出シ強テ古書ノミニハヨラス去レハ諸書ニアル画名ハコタニモレタルモアルベシ

一第一ノ冊ハ土佐家ヲ始トシテ其支流住吉板谷ニ終ル但シ其流ヲ學フ者數多アレハ次ノ卷ニ出ス第二ハ狩野家ヲ始トシテ其門派コレニ列ス第三ハ啓書記ヲ始トシテ雪舟雪村ノ末派ニ終ル第四ハ圓山又四條風ヲ始トシテ文人画家ニ終ル第五ハ帝王ヲ始トシテ親

王以下公卿武家雜士僧分女筆浮世繪ニ至ル迄都テ五卷ニ分チテ一部ヲナス

一本朝ノ聖德太子和法大師ヲ始メ上天子ヨリ下庶人ニ至ルマテ有名ノ先哲多クハ画ヲ筆セサルハナシサレド画ヲ以テ唱ヲルニ夕ラザル人或ハ其画ノ話シノミニシテ今ノ世ニ残ラザル人ハ之ヲ皆省ク

一専門家ニ非トイヘドモ画ヲ以テ世上ニ稱セラルル人ハ皆之ヲ舉グニモ亦譽ハ画ノ具

一古書ノ畫傳徃々誤リモ少ナカラズ故ニ今之ヲ訂シテ記載ス

一諸名家ノ画ニハ恠談アリ予ハ之ヲ信ゼザレバコトゴトク除ク譬ヘハ不動ヲ画ケハ乍チ火炎ヲ生ズルガ如キ也

一墨圈ハ画風變興ノ大綱ヲ分ツソ印トス

[Faint bleed-through text from the reverse side of the page]

扶桑畫人傳卷之一

古筆了仲編輯

赤松徳三
佐藤榮中

全校

○基光

姓ハ藤原大職冠鎌足六世閑院贈左大臣冬嗣公ノ男内舎人藤原良門ノ男利基ヨリ七世中納言清隆ノ男ナリ抑巨勢金持ヨリ画傳ヲウケテ佛画ヲ工ニス終ニ一家ヲナシ画工トナル南都東大寺ニ住シ春日ヲ以テ稱号トス始テ画所預トナリ内匠頭越前守ニ任ス此時相撲人形ヲ画キ

又三尊來迎ノ圖等アリ頗ル精密ニシテ筆力盛
ナリ則チ土佐家画工ノ祖先ニシテ後昆ノ連續
セルコト殆ント九百年ニ近シ其中間俊傑コモ
ゴモ出テ家聲ヲ墜サズ今土佐住吉及ヒ支族各
古則ヲ守リテ画事盛ナルモ基光ノ功德ヨリ出
テカクノ如シ他ニ之レアルベカラズ故ニ工藝
ノ名家トヤ謂ハン世上ニ存在シテ有名ノ画圖
左ニ記ス寛弘中ノ人明治十六年迄凡八百八十
年

遺蹟著名ノ品

- 一 山水屏風片
- 一 相撲繪卷物
- 一 阿彌陀佛
- 一 山水三尊來迎

隆能

画所預トナリ春日ト稱ス基光ノ男母ハ高階為
行ノ女ナリ正五位下藏人主殿頭ニ任ス画法ヲ
父ニウケテ亦佛画ニ工ナリ且殿閣倭人物ヲ画
クニ自ラ妙ヲ得タリ爰ニ至リテ今云フ土佐風
ノ画法始テ起リ精工トナル因テ源氏ノ圖ヲ作
ル頗ル世ニ名高シ承保中ノ人明治十六年迄凡
八百十年

遺蹟著名ノ品

- 一 源氏小卷物
- 一 普賢十羅刹女
- 一 十一面觀音
- 一 彌陀三尊童子有

一物語殘缺

隆親 三

画所預トナリ春日ト稱ス隆能ノ男從五位下備前守伊豫守又中務少輔等ニ任ス父ノ業ヲ繼テ佛画ニ工ナリ山水人物宮殿等ハ能セサルニヤ未コレヲ見ズ大治中ノ人明治十六年迄凡七百五十八年
遺蹟著名ノ品
一立像辨賤天
一諸佛画

○光長 四

画所預トナリ春日ト稱ス隆親ノ男從四位下越前守又刑部大輔ニ任ス業ヲ父ニウケテ佛像ヲ画クニ工ナリ然リトイヘドモ廣ク画事ニツカント云テ殊更ニ研窮シ終ニ妙手ニ至ル時ニ光長ヲシテ佛刹靈驗ノ圖又奇事ノ草子等ヲ筆作セシメ公卿權者各詞書ヲ贖書ス實ニ光長ノ名譽ナリ就中年中行事ノ繪六十卷ヲ画クニ名ヲ得タリ人形屋臺草木鳥獸其筆法ヲ見ルニ大ニ風致アリテ麁密濃淡賢愚長短遠ク規模ヲノガレテ規模ニ遠フコトコレ妙ナリ其自由ナルコト思ヒハカルベカラズ世ニ和画五筆ト稱スルコトアリ則チ光長慶恩吉光行光行秀ナリ又土

佐ノ三筆ト云フコトアリ光長光信光起ナリ何

レモ光長第一ニ居ス舎弟ニハ住吉慶恩一説ニ舎弟ニ

ハ非ト云フアリ同ク上画ニシテ世ニ名高シ父子

兄弟共ニ妙手ヲ振フコト画家ノ面目名譽ト云

フベシ文治中ノ人京師ニ歿ス明治十六年迄凡

六百九十一年

遺蹟著名ノ品

一信貴山縁起ト世ニ鳥羽僧正ト云フハ誤

一伴大納言草子 一彦炎出見草子

一病草子 一吉備公入唐草子

一杉川寺縁起 一三十六歌仙殘缺

一保元合戦屏風片シ 一雜画

一餓餽草子 一兒文殊

一京大報恩寺釋迦堂ハメノ画

一慈鎮和尚筆法華經ノ口画

一聖徳太子馬子圖 一太子堂繪張附

経隆五

画所預トナリ春日ト稱ス光長ノ男初メ有房従

五位下土佐権守又中務大輔ニ任ス業ヲ父ニウ

ケテ佛像并ニ管家ノ像ヲ能ス猶研究シテ丹青

ノ妙ヲ得春日曼多羅又官曼多羅等ヲ画クニ工

ニシテ其名彌々高シ此人ニ至リテ南都ヲ去リ

京師ニ住シテ春日ヲ改メ始テ土佐ノ稱号ヲ唱

建仁年中南殿賢聖障子ヲ画ク寛喜中ノ人明治十六年迄凡六百五十年

遺蹟著名ノ品

一賢聖ノ人物殘缺 一菅神

一太子画傳 一文殊尊

一紀州那智山水中屏風 一西行物語

一雪見御幸 一愛染明王 一鞍馬縁起

一太子画傳小圖卷物 一白山権現本尊

一春日星曼多羅并宮曼多羅

邦隆六

画所預トナリ土佐ト稱ス經隆ノ男從五位下豊

前守ニ任ス父ノ業ヲウケテ偏ニ画事ヲ勉ム唯佛画アリテ雜画少シ能ク家法ヲ守ル文永中ノ人明治十六年迄凡六百二十年

遺蹟著名ノ品

一三十六歌仙卷物

一法然上人四十八卷傳ノ内數段

一天神縁起殘缺 一十六善神

一釋迦文殊普賢 一孔子像

一人麿管神孔子三影 一五節ノ圖

長隆七

本氏土佐後チ姉小路ト稱ス經隆ノ二男別ニ

家ヲ成ス從五位下越前守ニ任ス後チ薙髮シテ
快閑ト号シ法眼ニ任ス父ノ画法ヲ傳ヘテ妙手
ニ至リ頗ル風致アリテ雜画ヲ善クス弘安中ノ
人明治十六年迄凡六百年

遺蹟著名ノ品

一蒙古退治ノ本尊不動尊

一融通念佛 一詞林言葉集 一地藏尊

一土蜘蛛草子 一住吉物語

一一生寫物卷物 弘安年号 一紫陽花屏風片シ

一法然上人四十八卷傳ノ内數段

一蒙古襲來 長章兩筆

吉光

画所預トナル土佐ト稱ス經隆ノ三男ナリ父ノ
教ヲウケテ佛画ヲヨクシ又雜画ヲモ工ニシテ
終ニ妙手ニ至ル仍テ其家ヲ嗣ク從四位下刑部
大輔ニ任ス画ク所ノ圖今世ニアリテ珍重ス就
中法然上人画傳并ニ上人四十八卷画傳等ハ殊
ニ名譽ナリ此人ノ画タマ々々世ニ散在シアル
トキハ人々之レヲ賞翫ス正安中ノ人明治十六
年迄凡五百八十五年

遺蹟著名ノ品

一法然上人画傳ノ内數段

一遊行緣起

一兒觀音緣起

一法然上人画傳殘缺 一十王繪

一法然上人四十八卷一筆

一春日宮曼多羅大幅 一隆信圖人磨

一伊勢八幡圖 一吉野曼多羅

一空海記殘缺 一淨土大曼多羅

一百鬼圖卷殘缺 一兒文殊

光秀九

土佐ト稱ス邦隆ノ男從五位下飛彈守ニ任ス父邦隆ノ嗣子ハ經隆ノ三男ナル故ニ光秀別ニ一家ヲナシ父ノ家ヲ嗣ガズ然リト雖モ父邦隆ノ教ヲウケテ画ヲ善クシ家法ヲ隆サズ嘉元中ノ

人明治十六年迄凡五百八十年

遺蹟著名ノ品

一墨画源氏細画 一狹衣

一佛像 一物語殘缺

光正十

土佐ト稱ス實ハ吉光ノ二男ニテ別家シ光秀ノ嗣ナリ從五位上越前守ニ任ス父吉光ニ画法ヲウケテ妙手ニ至リ就中芦手書ヲ工ニス元亨中ノ人明治十六年迄凡五百六十年

遺蹟著名ノ品

一平家公達草子 一扇面類

- 一源氏芦手書草子
- 一源氏小人物卷物
- 一物語名目

長章 十一

土佐ト稱ス長隆ノ男從五位下越前守ニ任ス光正ノ嗣ナリ父ニ學ンテ家法ヲ守ル延慶中ノ人

遺蹟著名ノ品

- 一明惠上人解脱上人縁起
- 一法然上人繪傳四十八卷傳ノ内數段

畫六縁起物殘缺

隆相 十二

土佐ト稱ス長隆ノ二男又別家ス從四位下刑部大輔ニ任ズ父ニ學ンテ家法ヲ能ク守ル正和中心ノ人明治十六年迄凡五百七十年

遺蹟著名ノ品

- 一男衾三郎草子
- 一新名所圖卷
- 一千代能圖切
- 一諸佛画

隆兼 十三

土佐ト稱ス邦隆ノ二男後チ高階ト改メ別家ス從五位下右近太夫ニ任ス父ノ業ヲウケテ画ヲ善クス延慶中命ヲウケテ春日驗記十六卷ヲ画

其事世ニ名譽ナリ從テ其技大ニ進テ妙手ニ
至ル延慶ヨリ明治十六年迄九五百七十年
遺蹟著名ノ品

- 一馬醫ノ圖詞 一五大明王
- 一地藏縁起 一石山寺縁起
- 一春日曼荼羅 一競馬殘缺
- 一加茂祭 一縁起物殘缺

光頭 十四

画所預トナル土佐ト稱ス隆兼ノ男ニシテ吉光
ノ家ヲ嗣ク土佐権守後チ越前守ニ任ズ父隆兼
ノ教ヲウケテ其技妙手ニ至ル因テ別家ヨリ本

家ヲ嗣ク當時建武康安ノ際ニアリテ公卿僧
俗名譽ノ人ト共ニ交リヲ厚クシ騰用セラレ故
ニ画毎ニ名家ノ賛詞アリ貞和中ノ人明治十六
年迄九五百三十九年

遺蹟著名ノ品

- 一直幹申文草子 一弘法縁起殘缺
- 一木筆不動 一平治物語書繼
- 一木筆三十六歌仙色紙 一歌仙殘缺
- 一法然四十八卷傳ノ内數段

行光 十五

画所預トナル土佐ト稱ス吉光ノ男從四位下越

前守ニ任ズ父ノ教ヲウケテ家ノ画法ヲ守リ技
大ニ進ム時ノ人ニ寵ヲウケ後世ニ遺蹟多シ延
文中ノ人明治十六年迄凡五百年

遺蹟著名ノ品

- 一 都誓願寺縁起
- 一 北野天神縁起
- 一 義経群高松
- 一 太子画傳
- 一 弘法縁起
- 一 四條道場一遍上人画傳

駿牛繪卷物 今切レ々々トナリテ世ニ散在ス

行廣 十六

画所預トナル土佐ト稱ス行光ノ男從五位下土

佐守又越前守ニ任ズ家ノ業ヲ嗣テ画ヲ善クス
難髮トテ法名經光ト云フ遺蹟世ニ多シ永和中
人明治十六年迄凡五百年

遺蹟著名ノ品

- 一 奈世竹物語
- 一 地藏尊十王
- 一 多武峯縁起
- 一 太子画傳
- 一 和田合戰武者ノ圖
- 一 嵯峨融通念佛ノ内一段

光重 十七

画所預トナル土佐ト稱ス行光ノ二男正五位下
越前守ニ任ズ父ノ教ヲウケテ画ヲ善クス因テ

二男ニシテ兄ノ家ヲ嗣ク當麻中將姫ノ縁起ヲ
画ス是ニ因テ名工トナル明德中ノ人明治十六
年迄凡四百九十年

遺蹟著名ノ品

- 一 釋迦縁起
- 一 佛画雜画
- 一 義經記ノ切
- 一 淨土五祖草子
- 一 善導大師縁起
- 一 達摩堂草子
- 一 舞樂ノ額

行秀 十八

土佐後千二春日ト稱ス行廣ノ男別家ス從四位
上修理亮大藏太輔ニ任ス家法ヲ守リテ画ヲ善
クス因テ命ニ應ジ永享二年弟光弘ト共ニ大嘗

會悠記方御屏風ノ画ヲ調進ス明治十六年迄凡
四百五十年

遺蹟著名ノ品

- 一 春日山童陵玉
- 一 三十六歌仙ノ額
- 一 嵯峨融通念佛ノ肉五段
- 一 愛染明王
- 一 三十六歌仙色紙
- 一 十六善神
- 一 鹿苑院殿ノ像
- 一 扇面雜画
- 一 日蓮上人ノ像
- 一 加茂祭小卷物
- 一 源氏藤裏葉二枚折屏風
- 一 百鬼夜行
- 一 求聞持色入在

光弘 十九

画所預トナル土佐ト稱ス行廣ノ二男ニシテ家ヲ嗣ク正五位下土佐権守中務丞ニ任ズ家法ヲ守リテ画ヲ善クス因テ兄行秀ト共ニ大嘗會主基方御屏風ノ画ヲ調進ス明治十六年迄凡四百五十年

遺蹟著名ノ品

- 一 諏訪住吉神影小圖
- 一 大黒天神
- 一 衿羯羅童子
- 一 鬘束猿
- 一 赤童子
- 一 保元合戦ノ屏風
- 一 執金剛縁起
- 一 初瀬寺縁起
- 一 春日曼荼羅
- 一 十二類繪
- 一 昆沙門天

画所預トナル土佐ト稱ス初メ光持ト云フ行秀

ノ二男ニシテ家ヲ嗣ク從五位下彈正忠ニ任ズ
テ歿ス

廣周ニ十一

画所預トナル土佐ト稱ス初メ光持ト云フ行秀ノ二男ニシテ家ヲ嗣ク從五位下彈正忠ニ任ズ
業ヲ能クシ妙手ニ至ル父ニ行秀アリ子ニ光信アリ實ニ榮花トヤ云ハン時ノ人稱譽ス仍テ後世遺蹟多シ應仁中ノ人明治十六年迄凡四百十

七年

遺蹟著名ノ品

- 一耕作屏風
- 一辨財天
- 一天稚彦草
- 一繫馬屏風
- 一人麿ノ影
- 一道成寺縁起
- 一水車屏風
- 一馬上武者二圖
- 一山王二十一社圖
- 一鹿苑院殿法体ノ像
- 一神功皇后縁起

○光信 二十二

画所預トナル土佐ト稱ス廣周ノ男ナリ右近將
 監ヨリ刑部太輔ニ至リ終ニ從四位下ニ任ズ光
 信画師ノ家ニ生レテ殊更ニ画ヲ嗜ミ父ノ画法

ヲ學ビ幼年ヨリ拔群ノ兆アリ人ト成ルニ及ン
 テ益画事ニ長ズ曾テ画ノ為ニ大明國ニ遊バン
 ト欲ス故アリテ果サズ因テ吾來和画ノ名アル
 者覺融信實巨勢宅磨住吉等ノ筆意ヲ窺ヒ之レ
 曰兼子之レヲ合シテ其宜シキヲ取リ之レ和シ
 之レヲ暢テ其法ヲ立ツ凡画家ニ歌仙ノ像ヲ作
 ルトキハ則チ信實ノ規光信ノ法ニヨリテ筆作
 ス光信カ画ニ於ケルヤ專ラ氣韻ヲ主トシテ更
 ニ形似ヲ求メス逸遊ノ圖芳艷ノ情ヲ摸出スル
 毎ニ其功妙ヲ究ム故ニ歌書草子ノ詞ヲ画テ官
 院閨房ノ玩物トナル則チ諸氏ノ画工モ亦其格
 ヲ用ユ近世漆器ノ描金ニハ其采画ノ法ニ倣ヒ

衣服ノ描花ニハ其墨画ノ法ヲ用ヒ又芦屋ニ製
 造スル鑄釜ニモ其圖ヲ模ス當時狩野元信ト共
 ニ名譽アリテ画ノコトニ関スルニ至リテハ光
 信ヲ賞用セサルハナシ故ニ往昔ニテハ基光中
 興ニテハ光信末ニテハ光起後世コレヲ土佐ノ
 三筆ト唱フ實ニ妙手ナリ曾テ名譽ノ遺跡世ニ
 多シ属テ之レヲ見ヨ光信ノ女ニ千代ト云フア
 リ狩野元信ノ妻ニナル光信傍ヲ連歌ヲ好ミ宗
 祇ニ從テ學ブ九十二ノ齡ヲ保チテ画事ニ從事
 スルコト實ニ本朝無双ノ画聖ナリ大永五年五
 月廿日歿ス明治十六年迄三百五十九年
 遺蹟著名ノ品

- 一 源氏五十四帖表紙ノ繪
- 一 大画源氏屏風十双
- 一 清水寺縁起
- 一 舞樂屏風并十卷物
- 一 石山縁起
- 一 扇面彩色墨画二枚折
- 一 金山天王寺縁起光信元信兩筆
- 一 十二類卷物
- 一 羅漢并佛画
- 一 屏風類諸画
- 一 御月扇
- 一 福富草紙
- 一 職人歌合
- 一 石山縁起
- 一 一人磨ノ像
- 一 四十八番春画
- 一 竹生島祭ノ圖
- 一 三十六歌仙額
- 一 源氏繪色紙大小
- 一 芦屋釜ノ下画
- 一 藤袋草子
- 一 堅田ノ圖
- 一 一ノ谷合戦ノ圖

一地藏堂草紙 一八島合戰ノ屏風 細画

一鶴草紙 一鼠草紙 一狐草紙

一一休半身ノ像 一惠比須大黒

一花鳥其外雜画

光茂 二十三

画所預トナル土佐ト稱ス光信ノ男ナリ正五位
上左近將監又刑部大輔ニ任ズ画法ヲ父光信ニ
學ンテ父ニ遠ク劣ラザル妙手ナリ故ニ遺蹟多
シ享祿中ノ人明治十六年迄凡三百五十年

遺蹟著名ノ品

一當麻寺新縁起 一富士牧狩馬取屏風

一源氏色紙 一源氏車爭屏風 一雜画

一犬追物屏風 一案山子化卷物

一花鳥其外雜画

光元 二十四

画所預トナル土佐ト稱ス光茂ノ男從五位下左
近將監ニ任ズ父ノ教ヲウケテ画ヲヨクシ終ニ
妙手ニ至ントスベキヲ惜カナ永祿十二年正月
十三日戰死ス時ニ卅歳故ニ遺蹟少シ明治十六
年迄三百十六年

遺蹟著名ノ品

一源氏五十四帖色紙 一天神

一大黒 一若竹鶏屏風 一酒飯論

光吉 二十五

画所預トナル土佐ト稱ス光茂ノ二男初メ刑部
從五位下左近將監ニ任ス父光茂ノ教ヲウケテ
画ヲヨクシ宮中調進ノ西屋勤ト衣テ終ニ妙手
ニ至ル後チ薙髮シテ久翌ト云フ故アリテ泉州
堺ニ移住ス慶長十八年七十五歳ニテ歿ス明治
十六年迄二百八十年

遺蹟著名ノ品

- 一翁三番叟ノ二幅
- 一天神
- 一秋野日月屏風
- 一利休肖像
- 一雜画

光則 二十六

画所預トナル土佐ト稱ス光吉ノ男右近ト云フ
故アリテ無官ナリ父ノ教ヲウケテ業ヲ嗣キ數
年調進ノ画ヲ勤ム寛永十五年正月十六日歿ス
五十六歳明治十六年迄二百四十六年

遺蹟著名ノ品

- 一源氏小扇面五十四枚
- 一金地舞樂屏風
- 一人磨
- 一芦鴈屏風

光起 二十七

画所預トナル土佐ト稱ス光則ノ男從五位下左

近將監ニ任ス父ノ家風ヲ事トシテヨク勉ムト
雖モ父死スル時光起廿二歳其頃故アリテ泉州
堺ニアリ光吉門人某ニ學ンテ画法ヲウケ夫ヨ
リ土佐代々ノ名画ヲ追慕シ且ツ和漢諸名家ノ
奥儀ヲモ窺ヒ頻リニ研究シテ終ニ妙手ヲ至ル
画ク所源氏ノ圖宮殿樓閣月卿雲客草木花實鳥
獸虫魚ノ動靜迄筆作殆ント生ケルカ如シ殊ニ
李安忠ノ圖ニ倣ヒテ鶉ヲ画クニ工ナリ後世画
法開ケテ應舉ニ至リ写生ノ画ヲヨクスト雖モ
光起ノ真寫遙ニ其上ニ居ル土佐家ニ和画中古
三筆ト唱フルコトアリ光長光信光起ナリ一時
ニ名ヲ海内ニ振ヒ画ヲ好ム者賞譽セザルハナ

シ前ニ光信ノ時ニ當テ狩野元信アリ當時ニ狩
野探幽ノ妙手アリテ土佐ニ光起ノ上画アリ難
髮シテ法眼ニ叙シ常昭ト号ス晩年香茶ノ道ニ
志シテ雅旨ニ至ル元禄四年九月廿五日歿ス七
十五歳明治十六年迄百九十二年

遺蹟著名ノ品

- 一三十六歌仙額
- 一新圖百鬼夜行
- 一酒顛童子奉物
- 一黃帝三幅
- 一田村磨延鎮行叡居士
- 一鶉ノ圖 教幅
- 一花鳥ノ圖 教幅
- 一一本松
- 一一本櫻

光成 二十八

画所預トナル土佐ト稱ス光起ノ男從五位下左
近將監ニ任ス父光起ノ教ヲウケテ終ニ上画ニ
至リ家法ヲ能ク守ル薙髮シテ常山ト号ス宝永
七年三月廿一日歿ス六十五歳明治十六年迄百
七十四年

光祐 二十九

画所預トナル土佐ト稱ス初メ光高ト云フ光成
ノ男正六位下左近將監ニ任ス父ノ画傳ヲウケ
テ家ヲ嗣キ光起ノ圖ヲ能クセリ宝永七年七月
七日惜哉三十六歳ニシテ没ス明治十六年迄百
七十四年

光芳 三十一

画所預トナル土佐ト稱ス光祐ノ男十七歳ニテ
正六位下卅八歳ニテ正五位下左近將監ヨリ大
藏少輔又左近少進ニ任ス父ノ業ヲ嗣テ時ニ盛
ニ賞譽セラル官命ヲウケテ屢画ヲ調進ス薙髮
シテ常覺ト号ス明和九年八月廿七日歿ス七十
三歳明治十六年迄百十二年

光淳 三十一

画所預トナル土佐ト稱ス光芳ノ男正六位下左
近將監ニ任ス父ノ業ヲ嗣ギ官命ヲウケテ屢画

ヲ調進ス明和元年父ニ先達テ歿ス卅一歳明治
十六年迄百二十年

光時 三十二

土佐ト稱ス光淳ノ男從五位下左近將監ニ任ス
父ノ業ヲ嗣ギ官命ヲウケテ画ヲ調進スコレヨ
リ以下光清迄ハ近代ノ人々ナレバ年号ヲ記サ
ス

光祿 三十三

土佐ト稱ス光時ノ男從五位下左近將監ニ任ス
父ノ業ヲ嗣ギ官命ヲウケテ画ヲ調進ス

光文 三十四

土佐ト稱ス實ハ別家光孚ノ男光祿ニ嗣ナシ因
テ本家ヲ嗣ク從五位下左近將監ニ任ス官命ヲ
ウケテ画ヲ調進ス古風ニ基キ画才アリテ時ニ
稱譽セララル

光貞 三十五

画所預トナル土佐ト稱ス光芳ノ二男ニシテ別
ニ一家ヲ開ク從五位下土佐守ニ任ス官命ヲウ
ケテ画ヲ調進ス妙画ト云フニハ非ト雖氏時ニ
盛ニ稱譽セララル

光孚 三十六

画所預トナル土佐ト稱ス光貞ノ男從四位下土佐守ニ任ス別家ノ二代目ナリ父光貞ノ教ヲ受テ父ニ能ク似タリ然リト雖ヒ光貞ヨリハ画才アリテ時ニ賞譽セラレ一時盛シニ画ヲ乞フ者多シ

光清 三十七

土佐ト稱ス光孚ノ男從五位下土佐守ニ任ス父ノ教ヲウケテ画ヲ學フト雖ヒ画風一変シ先代ニ登リテ古風ヲ研究ス因テ弟光文ト共ニ本支兩家ヲ嗣テ當時盛シニ画ヲ勤ム

○土佐家支流

○行長 三十八

土佐ト稱シ後チ春日ト改ム隆親ノ三男左近將監ニ任ス父ノ教ヲウケテ家法ヲ守リテ画ヲ能クス兄光長慶恩ノ長スル所ヲ得テ画風趣キアリ妙手ト稱ス縁起草紙ヲ画クニ名アリ承元中ノ人明治十六年迄九六百七十五年

遺蹟著名ノ品

- 一 荏柄天神縁起
- 一 俵藤太草子
- 一 能惠法師草子
- 一 物語卷物殘缺
- 一 人磨ノ影
- 一 雜画

元土佐氏後チ海田ト改通稱采女ト云フ隆相ノ
男ナリ父ノ教ヲウケテ画ヲ善クシ殊ニ勉強シ
テ大ニ妙手ニ至リ自ラ一家ヲナス西行記四卷
ヲ筆作ス其圖一々精妙ナラザルナシ世ニ采女
ノ西行記トテ名譽ナリ後チノ画工此記ヲ圖ス
ルトキハ必スコノ画法ニヨル應安中ノ人明治
十六年迄凡五百十四年

- 遺蹟著名ノ品
- 一西行記四卷
- 一歌仙切
- 一五大尊圖
- 一雜画

隆盛 四十

土佐ト稱ス隆兼ノ二男ニシテ光頭ノ弟ナリ父
ノ教ヲウケ画ヲ以テ伊豫守ニ任ス延文中ノ
人明治十六年迄凡五百廿六年

永春 四十一

土佐ト稱ス光頭ノ長男太夫法眼ト稱ス父光頭
支族ヨリシテ宗家ヲ嗣ク光頭家ニアリテ其嗣
ハ吉光ノ男ヲ以テ義子トス因テ永春支族トナ
リテ一家ヲ起ス其画スル所光頭ノ教ヲウケテ
善ク家法ヲ守ル舎弟二子アリ一ヲ寂濟一ヲ隆
光ト云フ各名家ノ聞エテリ貞治中ノ人明治十

六年迄凡五百廿七年

遺蹟著名ノ品

一來迎佛下ニ善導法然 一人磨

一天狗草紙 一雜画

一嵯峨融通念佛ノ内五段

○寂濟 四十二

土佐後ヲ六角繪所トナル前兵部少輔ト稱ス光
顯ノ二男画法父ノ教ヲ受テ妙手ニ至ル永徳年
中ノ人明治十六年迄凡五百草余
遺蹟著名ノ品
一惠心縁起 一法花曼荼羅

一氣違草子 一山水屏風

一三十六歌仙大色紙

一嵯峨融通念佛内一段

一天神 一山王靈驗記

一頼豪草子

光國 四十三

土佐ト稱ス永春ノ男光顯ノ孫ナリ画ヲ以テ備
後守ニ任ス父ノ業ヲ嗣テ家風ヲ善クス應永年
中ノ人明治十六年迄凡五百年
遺蹟著名之品

一春日曼荼羅 一求聞持

一峯峩融通念佛内四段

正甫 四十四

姓氏未詳泉州堺ノ住人土佐光起ノ門人ニシテ
画ヲ善クシ鶉ヲ画クニ名アリ元禄年中ノ人明
治十六年迄凡百九十四年

○巨勢家

○金岡 四十五

姓ハ紀氏ハ巨勢中納言野足カ孫有行カ子ナリ
始ノ采女正ニ任ス清和天皇ヨリ五代ノ朝ニ仕
ヘテ官ハ大納言ニ至ル自ラ丹青ノ妙ニ臻リ画

ヲ以テ一家ヲナシテ佛像ヲ画クニ精シ和仁以
後鴻儒ノ詩ニ堪ヘタル者金岡ヲシテ其形ヲ圖
セシメ又皇居南ノ庇東西ノ障子ヲ画ク歴代鴻
儒ヲ作ル則チ紫宸殿障子賢聖像是也小野道風
其賛詞ヲ書ス其後數百年來當時繪所ノ預リニ
テコレヲ画ク或ハ一時有名ノ画史詔ニ應スル
者其撰ニ當ル者ヲ画家ノ榮トナス賛詞モ亦是
ノ如シ然リトイヘトモ賛詞者ハ只能書ノ措紳
家ヲシテ名ヲ其上ニ書セシムノミ則チ筆道傳
法ナル世尊寺家コレヲ書ス此家絶テ後ハ又持
明院家獨リ此事ヲ掌トル元慶四年先聖先師九
哲ノ像ヲ画ク其他古今著聞集等ニ載スル所画

ニ恠談アリトイヘトモ信スルニ足ラサレハ今之ヲ省ク金岡ノ画一家ヲナストイヘトモ其傳ハ唐画吳道子ヨリ出ル画譜一編ヲ撰フ世ニ傳ハル金岡没日詳ナラスト雖モ恐クハ延喜年中ナラン然ル上ハ明治十六年迄九九百八十年遺蹟著名之品

- 一 淨土曼荼羅
- 一 鎌足公多武峯本尊
- 一 漢人狩之圖殘缺
- 一 地藏尊
- 一 阿彌陀三尊

姓ハ紀氏ハ巨勢金岡カ子也采女正ニ任ス除目成文抄云曰讚岐ノ少目從八位下画師巨勢ノ朝臣相見昌泰二年二月除目執筆時平公又源氏繪合卷云竹採翁之事實巨勢相見画之紀貫之書其事トアリ相見ノ画金岡ト大同小異ニシテコトニ活動アリ同ク佛像ヲ画クニ巧ナリ延喜年中ノ人明治十六年迄九九百七十年

- 遺蹟著名之品
- 一天人之羅漢
- 一文珠
- 一瀧見觀音
- 一愛染明王
- 一彌陀

公忠 四十七

姓ハ紀氏ハ巨勢相見カ子也又采女正ニ任ス丹
 青ノ名家ナリ村上天皇ノ御宇天曆三年十二月
 大内裏之坤別殿造之坤元祿文題而三人ノ才能
 コレ在リ詩ヲ作ラシム其ノ三人者則チ右大弁
 大江朝綱文章博士橘直幹大内記菅原文時ナリ
 六十首ノ詩ノ内勅ヲ蒙リテ宰相大江維時二十
 首ヲ撰出ス其二十首ハ朝綱十首直幹二首文時
 八首也其画圖公忠コレヲ筆スト云々曾テ画ノ
 屏風ヲ賣ント欲スル者アリ師ノ大臣將ニ買ン
 トス先ツ公望和高等ヲシテ之ヲ見セシム公望曰
 是公忠カ画ク所ノ屏風ナルトキハ則チ裏面紙

縫ノ間悉ク姓名ヲ記セン剝テ而テ試ムヘシト
 翻テ而テ見ル則果シテ然リ其心ヲ画ニ用ユル
 事ト是ノコトク天曆年中ノ人也明治十六年迄
 凡九百三十年
 遺蹟著名之品
 一傳教大師影題号小野道風

公望 四十八

姓ハ紀氏ハ巨勢造酒正ニ任ス公忠ノ弟ニシテ
 其家ヲ嗣ク小野宮大臣屏風ヲ造ル公望ヲシテ
 小松ヲ画カシム天元年中ノ人也明治十六年
 迄凡九百十年

遺蹟著名之品

一 相撲繪卷物寄合書

一 武知磨之像

一 扉馬子繪

一 愛染明王

和髙四十九

姓ハ紀氏ハ巨勢深江采女正ニ任ス法名延源公望カ子其家ヲ嗣テ繪所ノ長者トナル善ク佛像ヲ画ク具平親王コレヲ賞シタマフ地獄變相又不動尊千體ヲ画ク故ハ和髙初メ僧トナリ後チ還俗スルノ罪障ヲ悔シテ此像ヲ画テ供養スト云ノ或時宇治殿名画師為成ヲシテ扉ノ上ニ画

カシム為成扉ニ臨テ一日ノ間ニ畫シ了シ又宇治殿謂フ和髙ハ画セント欲スル時一日工夫ヲ費シ然シテ後筆墨ヲ揮フ為成何ソ卒尔ナル哉トナリ今昔物語ニ云「一條院ノ御代ニ繪師巨勢ノ和髙ト云者アリケリ古ニモ耻チス今モ肩ヲ並ル者ナシト云々寛和年中ノ人也明治十六年迄凡八百七十五年

遺蹟著名之品

一 不動像

一 十界十五幅

一 延年舞衝立

是重 五十

姓ハ紀氏ハ巨勢左近將監ニ任ス弘高カ子其家ヲ嗣テ画名アリ長元年中ノ人也明治十六年迄凡八百五十年

信茂 五十一

姓ハ紀氏ハ巨勢左衛門忠ニ任ス是重カ子画ヲ以テ其家ヲ嗣ク康平年中ノ人也明治十六年迄凡八百二十年

宗義 五十二

姓ハ紀氏ハ巨勢能登權守ニ任ス信茂カ子画ヲ

以テ其家ヲ嗣ク善ク佛像ヲ画ク其女後白河院ノ官女トナリ安藝トイフ宮内卿ハ又其女ナリ寛治年中ノ人也明治十六年迄凡七百九十年

益宗 五十三

姓ハ紀氏ハ巨勢出羽守ニ任ス宗義カ子画ヲ以テ其家ヲ嗣ク後世画傳詳ナラス此人ノ筆力恐クハ庸画ナラシ永久年中ノ人也明治十六年迄凡七百六十五年

有宗 五十四

姓ハ紀氏ハ巨勢民部大輔ニ任ス益宗カ子其家

ヲ嗣ク保元年中ノ人也明治十六年迄凡七百二十五年

宗久 五十五

姓ハ紀氏ハ巨勢修理介ニ任ス有宗カ子画ヲ以テ其家ヲ嗣ク正治年中ノ人也明治十六年迄凡六百八十年

永有 五十六

姓ハ紀氏ハ巨勢藏人ト稱ス宗久カ子画ヲ以テ其家ヲ嗣ク寛元年中ノ人也明治十六年迄凡六百四十年

光康 五十七

姓ハ紀氏ハ巨勢永有カ子画ヲ以テ其家ヲ嗣ク正應年中ノ人也明治十六年迄凡五百九十三年

○有家 五十八

姓ハ紀氏ハ巨勢光康カ子画ヲ以テ家ヲ嗣ク當時能画ト稱セラレテ家名ヲ輝カス因テ世ニ名画ノ遺ルアリテ人ノ知ル所ナリ元亨年中ノ人也明治十六年迄凡五百六十年

遺蹟著名之品

一行基縁起

一東帶管公之像

一十六羅漢十六幅

一地藏緣起

一太子繪傳

一離宮八幡圖

有康

五十九

姓ハ紀氏ハ巨勢光康カ二子画ヲ以テ兄有家カ
家ヲ嗣ク建武年中ノ人也明治十六年迄凡五百
四十八年

遺蹟著名之品

一人唐之像贊有

一小鳥荒神

一高瀬寺緣起

一和法緣起殘缺

一鳳凰孔雀二幅對

○巨勢家支流

○金若

六十

姓ハ紀巨勢ヲ氏トス始メ出家ニテ朝日阿闍梨
圓深又普天子ト云フ後チ還俗シテ画ヲ善クシ
其流唐画ヨリ出テ一家ヲナス承和四年ニ清涼
殿ノ間ヲ画ケリ且テ大納言ニ至ルト画傳ニア
リ大系圖紀姓ノ條ニモ見エス又公卿輔任ニモ
見エサレトモ画名世ニ高シ恐クハ金岡ノ祖父
タラン承和年中ヨリ明治十六年迄凡千〇五十
年

金高

六十一

画ヲ善クス

金持

六十二

畫ヲ善クス

此二名ハ年序詳ナラストイヘトモ巨勢氏ニシテ金若ノ子孫金岡ノ一族タルヘシ扶桑画工傳ニ金若カ子金高ナリ金高カ子金持也ト宜ナリ土佐之祖基光ハ画法ヲ金持ヨリ受シト諸書ニ見エタリ

宗深

六十三

刑部丞ニ任ス有宗ノ弟ナリ治承年中ノ人明治十六年迄凡七百年余

源慶

六十四

若年ノ時僧躰トナル有宗ノ末弟ナリ画ヲ以テ法眼ニ任ス宅磨良賀ト共ニ當麻寺新曼多羅ノ事ニ預ル画圖未タ成ラスシテ卒ス其子源尊繼テ其任ニアタル建仁年中ノ人明治十六年迄凡六百八十年

尊知

六十五

画ヲ以テ法眼ニ任ス僧躰トナル建久年中ノ人

明治十六年迄凡六百九十年

源尊 六十六

源慶カ子ナリ源慶死シテ後良賀ト共ニ當麻寺
新曼多羅ノ圖ヲ為ス後法眼ニ任ス嘉禎年中ノ
人明治十六年迄凡六百四十七年

有行 六十七

掃部介ニ任ス文應年中ノ人明治十六年迄凡六
百二十二年

十六年迄凡六百零九年

有忠 六十八

修理亮ニ任ス和安年中ノ人明治十六年迄凡六
百〇四年

有重 六十九

稱号詳ナラス正安年中ノ人明治十六年迄凡五
百八十三年

有久 七十

右近衛將監ニ任ス延慶年中ノ人明治十六年迄
凡五百七十四年

行忠 七十一

畫ヲ以テ采女正ニ任ス有久カ子佛像ヲ画クニ
名アリ文和年中ノ人明治十六年迄凡五百三十
年

惟久 七十二

畫ヲ以テ飛彈守ニ任ス當時ノ能画ヨシテ武者
ヲ画クニ巧ナル事後三年ノ画ヲ見テ知ルヘシ
元亨年中ノ人明治十六年迄凡五百六十年
遺蹟著名之品

- 一後三年軍記
- 一如來荒神
- 一袋草子
- 一聖徳太子
- 一辨財天
- 一はらひとんく

文即平四十八卷傳數段

俊久 七十三

惟久カ子父惟久ノ業ヲ嗣テ名聲ヲオトサス貞
治年中ノ人明治十六年迄凡五百二十年

覺玄 七十四

阿闍梨文和年中ノ人圖画ヲ善クシ何レノ人タ
ルヲ知ラスト古書ニアリ豊後法橋ノ画ノ師ニ
シテ巨勢ノ流ナルコト明カナリ明治十六年迄
凡五百三十年

豊後法橋 七十五

其姓名ヲ知ラストイヘトモ画ヲ覺玄阿闍梨ニ
學ンテ八坂法觀寺ノ縁起ヲ画クトアリ康安年
中ノ人明治十六年迄凡五百二十年余

筑後法印 七十六

應永年中ノ人其姓名ヲ知ラスト古書ニアリ豊
後法橋ノ門流ナラン明治十六年迄凡四百九十
年

越後法眼 七十七

文明年中ノ人其姓名ヲ知ラスト古書ニアリ巨

勢家ノ画風ヲヨクシテ佛像ニ長セリ明治十六
年迄凡四百十年余

○宅磨家

○為氏 七十八

姓ハ藤原宅磨氏ノ祖永延年中ノ人ニテ巨勢知
高ト同時ニ畫ヲ以テ爭フト古書ニアリ明治十
六年迄凡八百九十五年

為成 七十九

氏ハ宅磨為氏カ子ナリ画ヲヨクスル聞エアリ
テ繪所ノ長者トナル宇治平等院ニ於テ扉ノ上

畫ク和髙ト同ク世ニ鳴ル長曆年中ノ人明治十六年迄凡八百四十四年

遺蹟著名之品

- 一平等院鳳凰堂壁并扉繪
- 一地藏尊兩童子

為遠 八十

氏ハ宅磨画ヲ以テ豊前守ニ任ス晩年剃髮シテ勝知ト云フ佛像ヲ画クニ名アリ時ニ近衛院勅願アリテ高野山覺王院ヲ造リシノタマノ時為遠ヲシテ其堂中四壁ヲ畫カシム覺鑊上人画法ヲ為遠ニウケテ佛像ヲ画ク保安年中ノ人明治

十六年迄凡七百六十年余

遺蹟著名之品

- 一十二天扉繪 百五十一佛畫
- 一地藏尊
- 一阿彌陀之像

為久 八十一

氏ハ宅磨為遠カ三子画ヲ以テ家ヲ嗣キ下総守ニ任ス画图ニ長シテ當時無雙ノ名ヲ得タリ壽永年中ノ頃源頼朝公為久ヲ鎌倉ヘ召テ聖觀音ノ像ヲ画カシム為久衣冠ヲ着シテ是ヲ画ク画テリテ都ニ歸ルトキ頼朝是ヲ賞シテ鞍馬ヲ贈リ錢別トストアリ壽永年中ヨリ明治十六年迄

凡七百年

遺蹟著名之品

一十六羅漢殘缺

一八大荒神

為行 八十二

氏ハ宅磨為久カ子能画ノ聞エアリテ左近將監ニ任スト東鑑ニアリ又將軍頼經公ニ仕ヘテ寵ヲウク為行画ニ士氣活動アリテ雜画ヲモヨクス當時ノ人皆コレヲ愛ストナリ寛喜年中ノ人明治十六年迄凡六百五十三年

澄賀

八十三 六十五

氏ハ宅磨為久カ子ナリ画ヲ以テ家ヲ嗣キ法印ニ任ス圖画ヲ善クシテ佛像人物ハ神妙ニ臻ル雜画ニ至リテモ生氣活動アリテ當時ノ人賞セサルハナシ又九條関白兼實公澄賀ヲシテ法然上人ノ真像ヲ寫サシム公ノ意ニカナヘリ而シテ今嵯峨二尊院ニアリ世ニ謂フ足引ノ影是也以後凡ソ上人ノ像ヲ画セント欲スル者皆此ノ像ニ因テ圖スト信ナルカナ世間ニコレアル上人ノ像千萬トイヘトモ同躰ニシテ趣モ亦同シ柁尾高山寺ニ春日住吉二神ノ古像アリ俗ニ云フ二神毎ニ來リテ法ヲ明惠ニウクトイフ時ニ澄賀往テ請ヒ之ヲ見ントイフ明惠ノ曰ク凡眼

ニ之ヲ拜スルトキハ則チ恐クハ害ヲ蒙ラント云フ然レトモ固ク請テ己マス而テ姑ク之ヲ許ス澄賀竊カニ模寫シ駕ヲ促シテ京ニ歸ルトキ馬ヨリ墮テ道ニ卒ス上人ノ言果シテ然リトアリ其言ハ信ス可カラスト雖トモ今宅磨ノ塚ハ鳴瀑ニ在リ然レハ終ハ此地ニ取ル乎澄賀寫ス所ノ二神ノ像ハ今拇尾ノ神像コレナリ建仁年中ノ人明治十六年迄凡六百八十年余

遺蹟著名之品

一阿彌陀

一不動降三世

一十二天屏風

一法然上人之像

一和尙三尊千手一畫春日影嚮之圖

勝賀

八十四

氏ハ宅磨画ヲ以テ法眼ニ任ス為久カ子澄賀ノ弟ナリト云フ澄賀ノ家ヲ嗣シ東寺長者補任ニ曰建久二年新ニ屏風ヲ造リ勝賀ヲシテ十二天ヲ寫サシム其種字ハ仁和寺宮ニ品守覺法親王ノ筆蹟ナリトアリ一時勝賀武藏ニ住ス住所今残リテ法眼坂ト云フ元久年中ノ人明治十六年迄凡六百七十八年

遺蹟著名之品

一十二天屏風

一十六羅漢

一毘沙門天

一カハ毘沙門

良賀 八十五

画ヲ以テ法眼ニ任ス土御門院承元二年和州當
 麻寺ノ僧鏡忍坊良喜坊惠阿彌坊等心ヲ合セテ
 新曼多羅ヲ圖セント欲ス按察使藤原光親ニ憑
 テコレヲ奏ス則チ勅許アリ繪師良賀源慶ニ詔
 シテ圖セシム今ノ當麻寺新曼多羅是ナリ嘉祿
 年中ノ人明治十六年迄凡六百六十六年
 遺蹟著名之品 一當麻寺新曼茶羅

榮賀 八十六

宅磨ノ家名ヲ嗣ク父子傳統不詳画ヲ以テ法眼

ニ任ス毎ニ釋迦文珠普賢ノ三尊ヲ画テ自ラ宅
 磨ト書ス其佛像ヲ見ルニ元ノ顔輝ノ筆意ニ似
 タリ先ニ此躰ヲ見ス蓋シ倭画ノ古風ヲ變シテ
 新ニ漢土ノ筆法ヲ學フコト多クハ此ニ始ル乎
 正和年中ノ人明治十六年迄凡五百六十年
 遺蹟著名之品

- 一墨画觀音之像
- 一瀧見布袋之圖
- 一十六羅漢
- 一人丸之像
- 一太子孝養影
- 一墨画十六羅漢
- 一摩古仙人
- 一菅神之影
- 一真画布袋之圖

○宅磨家支流

○成忍 八十七

梅尾ニ登テ明惠上人ノ弟子トナリ惠日坊成忍ト云フ若年ノ頃性圖画ヲ好ミ專ラ佛像ヲ工ニシテ瑞泉寺ノ色紙形殿之扉ニ菩薩及彌陀尊像ヲ画ク雜画ヲモ善クス画ハ宅磨法眼ニ學フト古書ニアリ梅尾ノ舊記ニ因テ見ルトキハ恐クハ勝賀ノ子タルトシ畫法モ亦ヨク似タリ承元年中ノ人明治十六年迄凡六百七十四年遺蹟著名之品

一明惠上人墨繪影 一將軍地藏尊

淨賀 八十八

釋氏ニシテ画ヲ宅磨ニ學フトアリ始メ信州康樂寺ニ寓居スル時始テ本願寺ノ祖師親鸞上人ノ行狀ヲ画ク詞書ハ本願寺覺如上人ノ筆ナリ末寺ノ僧徒之ヲ寫ス門徒之ヲ御画傳ト云フ淨賀ノ画スル所ハ今本願寺ニ藏ス元亨年中ノ人明治十六年迄凡五百六十年余

了尊 八十九

嘉曆年中ノ人明治十六年迄凡五百六十年

淨宏 九十

嘉慶中ノ人明治十六年迄凡四百九十四年

松谿 九十一

永亨年中ノ人明治十六年迄凡四百五十三年

遺蹟著名之品

一寒山拾得之像 六十一 仙人之像

一魚藍觀音之像 應春 一觀音之像

信春 九十二

春日ノ画所トナリ京師ニ住ル天文年中ノ人明

治十六年迄凡三百五十年

遺蹟著名之品

一三社之圖 一三尊之像

一花鳥之圖 一雜画墨画

○芝家

○觀深 九十三

氏ハ芝名ハ觀深世ニ芝法眼ト稱ス南都ニ住シ

テ春日ノ畫所トナル世ニ佛画多シ永亨年中ノ

人明治十六年迄凡四百五十年

尊海 九十四

氏ハ芝名ハ尊海世ニ芝法眼ト稱ス南都ニ住シ

テ春日ノ画所トナル其ノ画ク所ノ者興福東大

兩寺ニ多シ春日安居ノ屋ニ相撲節會ノ屏風アリ嘉吉年中ノ人明治十六年迄凡四百四十年

慶舜 九十五

氏ハ芝名ハ慶舜世ニ芝法眼ト稱ス南都ニ住シテ春日ノ画所トナル世ニ佛画多シ文明年中ノ人明治十六年迄凡四百十三年

琳賢 九十六

氏ハ芝名ハ琳賢世ニ芝法眼ト稱ス南都ニ住シテ春日ノ画所トナル後チ京師大原ニ移ル画法土佐ヨリ出テ一家ヲナス佛像ヲ寫スニ巧ナリ

東大寺ノ縁起ヲ圖スルコト其名高シ永正年中ノ人明治十六年迄凡三百七十八年前家風ノ遺蹟著名之品
一東大寺縁起
一諸佛画
一雲中天神之像

琳玄 九十七

氏ハ芝名ハ琳玄實ハ宅磨信春ノ子世ニ芝法眼ト稱ス南都ニ住シテ春日ノ画所トナル佛像ヲ画クニ巧ミナリ長谷觀音堂扉四天王ノ像ヲ画ク慶長年中ノ人明治十六年迄凡二百八十六年

侍從 九十八

氏ハ芝侍従ト稱ス琳玄カ子ナリ父ノ画格ヲ傳
ヘテ佛像ヲ画クニ巧ナリ南都ニ住シテ春日ノ
画所トナル元和年中ノ人明治十六年迄九二
百六十七年

○粟田口家

○隆光 九十九

氏ハ粟田口名ハ隆光通稱民部土佐光頭ノ三男
一家ヲ開テ洛東粟田口ニ住ル故ニ粟田口法眼
ト高稱ス父光頭ノ教ヲウケテ画ク所家風ヲ守
ル頗ル活動アリテ當時佛像人物花鳥ヲ能クス

應永年中ノ人明治十六年迄九百八十八年

遺蹟著名之品

- 一 役行者之像
- 一 八大荒神之像
- 一 一牧童之圖
- 一 巖峩融通念佛ノ内二段
- 一 叡山横川元三大師生前御影三幅寫
- 一 繫馬繪屏風

經光 百

氏ハ粟田口名ハ經光隆光ノ男ナリ又粟田口法
眼ト号ス画法父ニ同ウシテ活動アリ設色ノ草
花生ルカ如ク佳作ナリ應永晚年ノ人明治十六

年迄九四百六十年

○住吉家

○慶恩 百一

姓ハ藤原氏ハ住吉隆親ノ二子光長ノ弟光長ノ弟不詳
 トイフ説ハ非ナリ古來人口ニ傳ヘテ人ノ知所ナレハ弟ト定テ可ナリ幼名聖壽磨
 插州住吉ノ繪所ニテ住吉ノ里ニ住スルヲ以テ
 氏ヲ唱フ画ヲ以テ法眼ニ任ス画風光長ニ似タ
 リトイヘトモ士氣活動アルハ兄ニ越タリ其
 圖スル所ノ名画世ニ残リテ人ノ知ル所ナリコ
 トニ漢頂之卷或ハ小柴垣草紙等ニ至リテハ秘
 戲ノ圖ニシテ頗ル世ニ名高シ慶恩別ニ一家ヲ

慶ノ字
マ、内筆ノ

ナスコト明カナリ本朝画史ニ曰宅磨住吉粟田
 口芝ノ四人ハ春日ノ画所ナリ共ニ南都ニ住シ
 テ世業佛像ヲ寫ストアリ是ニ因テ見ルトキハ
 慶恩モ後南都春日ニ移ル歟慶恩画キシ名譽ノ
 卷物等詞書ハ後白河帝後京極慈鎮等ニテ皆平
 安ノ名家ナリ然ル上ハ多クハ京師ニ居住セシ
 ナラン此人子孫画名ヲ嗣ク者二三代ニシ業久
 シク絶タリ世ニアル因果經ノ画卷物與書ニ画
 衆丸建長六年二月廿七日書寫了執筆良快トア
 リ了仲日此與書ハ良快ノ真跡ニシテ慶恩ノ文
 字ハ慶恩ノ書損トモ思ハレ聖衆丸ハ慶恩ノ子
 コレ又興ナレハ慶恩并ニ聖衆丸ハ慶恩ノ子ト
 孫トナルヘシ然ルトキハ年代モ相当シテ画モ
 慶恩トナルヘシ然ルトキハ年代モ相当シテ画モ
 目果經ノ画者ト此經ノ真書ニアル後案ヲ待ツ建
 ハ唯慶恩ノ画者ト此經ノ真書ニアル後案ヲ待ツ建

夫史書ノ傳 卷之一 四十二

仁年中ノ人明治十六年迄凡六百八十年餘

遺蹟著名之品

- 一 當麻曼荼羅緣起
- 一 漢頂之卷
- 一 地藏尊緣起
- 一 不動利益緣起
- 一 住吉神影松鷲之二幅
- 一 春日鹿曼荼羅 七幅
- 一 春日宮曼荼羅 數ノ内小幅度有
- 一 天王寺聖德太子繪傳小圖
- 一 天王寺聖德太子真向御影
- 一 平治物語三卷
- 一 小柴垣草子繪卷
- 一 法相宗秘笈繪卷
- 一 松鳥之圖

○廣通

百二氣實並々千並群内語味々黃粉々

氏ハ住吉土佐光吉ノ次子幼名光陳通稱内記後
 薙髮シテ如慶ト改ム法眼ニ怪ス画ヲ善クスル
 ヲ以テ將軍家ノ画師トナリ東都ニ住シテ業ヲ
 世々ニス今ノ画家住吉氏ハ其正統ナリ抑々往
 昔住吉慶恩ト云フ名譽ノ画氏アリ業久シク絶
 タリ廣通勅ヲ奉シテ新ニ住吉ノ家名ヲ興シ依
 テ如慶ヲシテ住吉家中興ノ元祖トス土佐家ノ
 画格ヲヨク守リ其圖精密ニシテ頗ル美麗ナリ
 和画ニ於テ名人トモ謂ツヘシ寛文十年六月二
 日没ス七十二歳明治十六年迄二百十四年
 遺蹟著名之品

一 聖德太子繪傳 五卷

一 多武峯新綠起 具慶而筆

一 光明寺綠起 一 義經記

一 夢物語 一 曾我物語

一 宇治拾遺 一 槁姬物語

一 天若彦草子 一 木曾物語

一 廿四孝卷物 一 奈世竹物語

一 伊勢物語二卷 一 三韓退治

一 妙法院宮鳩之間之繪

廣澄

百三

氏ハ住吉如慶廣通カ子通稱内記初メ廣純ト云

フ後雜髮ニテ具慶ト改ム画風父如慶ニ似タリ

トイヘトモコト一人物面部鳥獸ニ至リテハ活

動アリテ筆力盛ニナリ依テ父ノ愛顧ヲウクル

コト父ニ越タリ宝永二年四月四日没ス七十五

歳明治十六年迄百七十八年

遺蹟著名品

一 禁中御節會屏風

一 箱崎八幡宮綠起 五卷

一 妙法院宮御祈念佛五大尊之像大幅

一 洛中洛外之圖屏風

一 林丘寺宮杉戸鯉之繪

廣保 百四

氏ハ住吉具慶廣澄カ子初メ廣芳通稱内記又内藏允ト云フ晩年ニ至リ薙髮シテ至石ト云フ寛延三年没ス八十五歳明治十六年迄百三十四年

廣守 百五

氏ハ住吉廣保カ二子ニテ嗣トナル通稱内記晩年薙髮シテ慶至ト云フ此人画名高カラス安永年中没七十三歳明治十六年迄百〇七年

廣行 百六

氏ハ住吉廣守カ子通稱内記号ヲ景金園ト云フ

實ハ板谷慶舟廣當カ子也廣守嗣ナク依テ門人ヨリ其師家ヲ嗣ク画風活動アリテ人コレヲ賞ス文化八年没五十七歳明治十六年迄七十一年

廣尚 百七

氏ハ住吉廣行カ子通稱内記画名世ニ聞エアリ父子三人共和画ノ鑑定ヲヨクス故ニ鑒札アリ文政十一年没ス四十八歳明治十六年迄五十六年

和貫 百八

氏ハ住吉廣尚カ子初メ廣定又和定通稱内記画風土佐家ノ古昔ヲ慕ヒテコトニ活動アリテ近

代ノ上エタリ世ノ人之レヲ賞セサルハナシ住
吉代々狩野家ト齊シク將軍家ノ画師ト雖トモ
大ニ席ヲ異ニス弘貫ニ至リテ特別ヲ以テ狩野
ト同ク始テ旗下ノ列ニ加ハル偏ヘニ弘貫ノ画
功也文久四年没ス七十一歳明治十六年迄二十
年

○住吉家支流

○廣夏 百九

如慶廣通ノ二子画名ヲ鶴洲ト云フ出家シテ釈
門ニ入り四國ニ往テ高松ノ祥福寺ヲ創ス父ノ
画風ヲ慕ヒ終ニ善クス享保十八年没ス九十二

歳明治十六年迄百五十八年

○板谷家

○廣當 百十

氏ハ板谷初メ廣度後薙髮シテ慶舟ト云フ住吉
廣守ノ門ニ入テ画ヲ學ヒ師ニ越テ活動アリ當
時ノ人之レヲ賞ス廣當元ト青山大膳亮ニ仕フ
將軍家台聞ニ達シ住吉家ニ次テ柳營ノ画師ト
ナリ世ニ行ハル寛政九年没ス明治十六年迄八
十五年

廣長 百十一

慶舟廣當カ子薙髮シテ桂舟ト云フ父ノ業ヲ嗣
テ画ヲ善クスコレヨリ後チ子孫廣隆長利アリ
一代毎ニ桂意桂舟ト名ヲ異ニスルヲ例トスト
ナ
ン

扶桑畫人傳卷之一終

十八年

